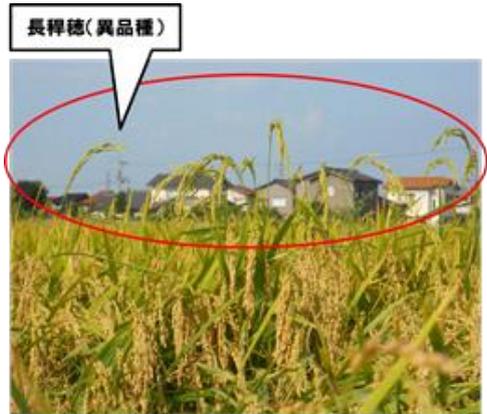


# 漏生イネ対策特集

## 漏生イネ対策（品種変更予定のほ場）

同一品種を作付するのが一番ですが、どうしても、前作と異なる品種を作付する場合は下記の対策1～3が必要です。



### 【対策1】 前作水稲収穫後、ただちに秋耕

（10月中）し、こぼれた粃を土中に埋没させ、翌春の発芽率を低下させる（秋耕が遅れると、2番穂が登熟するとともに、翌春発芽率を低下させる効果が低いので注意する）

### 【対策2】 春の田植え前、2回代かきを実施

（代かき間隔を7日以上あけ、浅水代かきとする）

### 【対策3】 田植え直後（同時）に初期除草剤を散布（その後適期に一発除草剤散布）

**「ソルネット1キロ粒剤」**（成分：プレチラクロール）

### 【対策1が実施出来なかった場合】

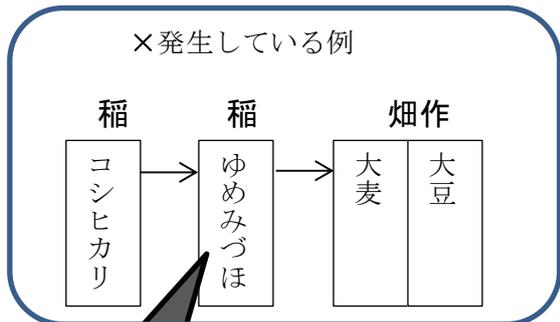
ヒエ多発圃場にも有効

- ① 耕起前に「プリグロックスL液剤」1000ml/10a（希釈水量100～150L）を全面土壤散布（粃、ヒエ等、イネ科種子に散布すると発芽生育能力を失う効果）
- ② 耕起前に石灰窒素50kg/10aを散布。散布後は、ほ場をなるべく乾かし3週間程度は耕起しない。次年度の水稲施肥Nを1kg/10a程度減らす。

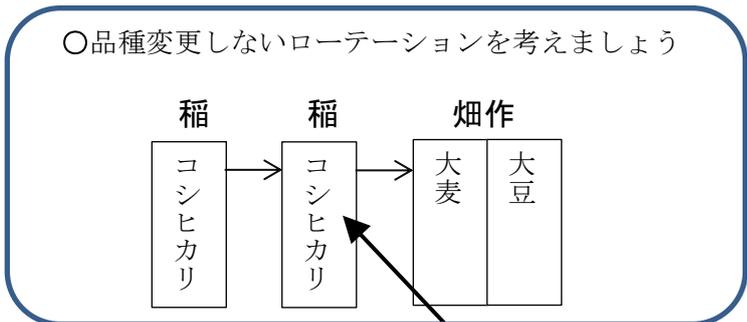
### 【麦・大豆でローテーションする場合】

対策を組み合わせると、発生する密度低減を図る。ただし、完全に発生を防除することは難しい。

- ・基本的に、畑作前の2年間の水稲は同一品種を作付する。
- ・品種を切り替える時は、畑作→水稲のタイミングで実施する。



コシヒカリの漏生粃発生×



「水稲コシヒカリ→大麦」となるほ場は、水稲栽培中の中干し・溝切りの徹底、刈取り後の排水溝設置など、より排水対策に努め、大麦播種に支障の無いようにする。